



学校だより

令和5年度 第11号
令和6年3月25日発行
横浜市立藤の木中学校
横浜市南区大岡四丁目44番1号
045-714-2817



コミュニケーション～『安心できる集団作り』と『相手に伝える表現の工夫』～

こうちょう ささはら ようこ
校長 笹原 洋子

3月12日、保護者や地域の皆様、そして在校生に見守られながら、3年生は立派に成長した姿で卒業証書を受け取り、藤の木中学校を巣立っていきました。卒業生も立派でしたが、1,2年生の態度も立派でした。改めて、藤の木中学校の生徒たちのもっている「力」を感じた1日でした。



19日、2年生が修学旅行の事前学習発表会を実施しました。修学旅行で訪れる長崎を中心に各自がテーマごとに調べ学習を行い、A4用紙1枚にまとめました。そして、その内容を学級で発表し、各学級の代表2名ずつが学年全体会で発表しました。発表した人たちは、自分が調べたことの中から、自分が伝えたいことを、聞いている人が興味をもって聞き内容を理解し易いようにクイズ形式で問いかけたり、一人芝居を演じたりするなどの工夫をしていました。後で、2年生の先生に聞いたところ、学年発表会には保護者もいたためか、発表者も聞いていた生徒たちもやや緊張していたとのこと、クラスで発表した時には、もっと盛り上がったということでした。

今年一年間、藤の木中学校では、「コミュニケーション力をつけよう」と取り組んできていました。この発表会の話から、コミュニケーション力を育てるためには、2つのことが大切だと改めて感じました。一つ目は、話を受容的に『聞こうとする態度』の育成です。きっと、1年間共に過ごしてきたクラスでは、誰もが受け止めてもらえる安心感があったのだと思います。『聞こうとする態度』をもっと広くとらえるなら、『安心できる集団を作ること』だと思います。二つ目は、『相手に伝える表現の工夫』です。いくら詳しい内容でも、話すスピードが速すぎたら伝わらないし、もし、怒っているような口調や表情で言ったら、それだけで相手が心を閉ざしてしまうこともあります。また、先日の学校保健委員会で話を伺ったような、聞く人の優位感覚を意識した伝え方も大切にしたい考えです。藤の木中の多くの生徒たちは、すでに発表する力は身に付いていると思います。さらに身に付けたいのは、相手に伝える表現力ではないかと感じました。新年度にかけて教職員で検討し、コミュニケーション力を育成するための具体的な方法を考えようと思いました。

今日で今の学年での学習は修了となります。教科の学習だけでなく、仲間たちと一緒に様々なことを感じ、学び、成長したことと思います。春休み、家族の皆様と、この1年間の成長を振り返ってみましょう。

保護者の皆様、地域の皆様、1年間のご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

令和6年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

